

1 事業内容等 教育活動区分

1 教育活動	区分	⑤文化財・伝統文化の活用・保全
	テーマ	茅葺き文化の周知・保護・利用促進について
2 連携する市町	広島市・北広島町	
3 連携する企業、団体等	株式会社 Earth Building、NPO 法人西中国山地自然史研究会、芸北中学校、芸北支所	

2 活動の目的等

【目的】

芸北地域では昔は茅葺き建築が多くあったが、現在は2軒しかなく、現在茅葺き職人も200人しかおらず、産業や文化が衰退し続けている。一方、茅葺き建築は、いまの時代に求められているSDGsの観点に合致しており、カーボンニュートラルで大変素晴らしい建築である。このままでは、茅葺きの文化が途絶えてしまう。茅葺きの良さを幅広い世代の人々に知ってもらい、課題についてともに考え、伝統を次世代に引き継がなければならない。まずは、芸北地域で全国から生徒が集まる加計高等学校芸北分校に近接する芸北支所で、茅の良さを伝えるティピを作り、芸北出身者を含め、それ以外の人々にも興味・関心を持ってもらう。

【大まかな内容】

- ・茅葺き職人に指導・助言をしていただく。
- ・校内で茅に関する認知度を調査する。
- ・生徒や保護者に実際に茅葺きの建物を利用してもらう。
- ・芸北地域の中心部である芸北支所にティピを作成し、児童・生徒・地域の人々や観光客の憩いの場とする。

【期待される効果】

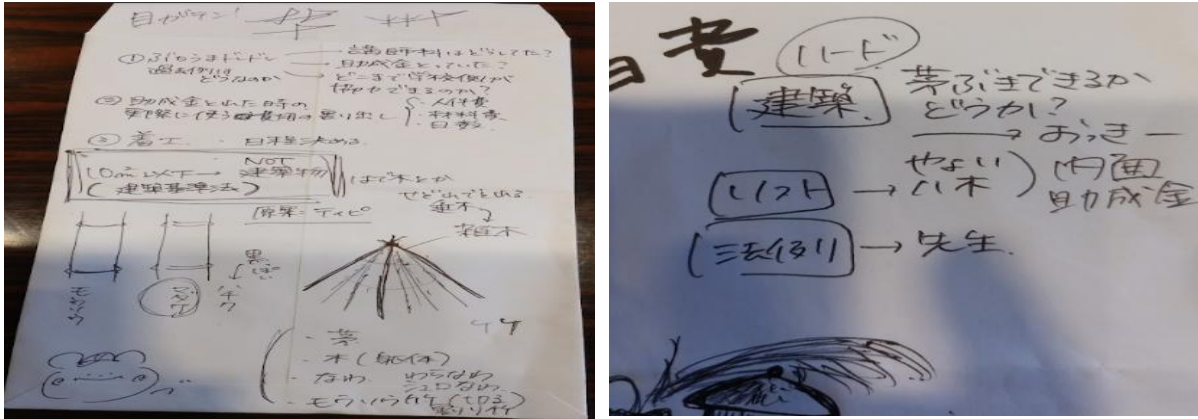
- ・茅葺きを使用することで、ススキ（茅）や「せどやま」を活用できる。
- ・茅葺きの建築物を作り、触れることで茅葺きに興味を持つ学生が増え、茅葺きを身近なものに感じてもらう。その結果として将来茅葺き職人になる人が増えると

期待する。

- ・生徒の喫食場所や休憩所として利用でき、自然に触れ合う憩いの場所ができる。

3 活動のスケジュールと内容

7月：本校生徒の小林と株式会社 Earth Building の沖元太一様との打ち合わせを行った。ティピの設計について、助言をいただき、具体的な方策を検討した。



7月：現在も茅葺き住宅に住まわれている、NPO 法人西中国山地自然史研究会顧問下杉孝様宅を訪問し、茅葺き住宅について実地調査を行った。茅住宅での生活、茅住宅手入れ方法、茅住宅の歴史、保管方法などを伺った。

生徒の実地調査メモ

・茅葺き屋根の構造や特徴

① 麻(おがら)を使っている。

厚みをつけるために、麻→わら→ススキの順番で屋根が作られている。

② 屋根の傾斜が急なため雨漏りしない。

・茅葺き屋根の張り替え

① 一般人の人も茅の技術を知っていたため、地域の人が一丸となって屋根の張り替えを行っていた。

・その他

・夏はとても涼しい。

・外の音が入らないため快適。

・使われなくなったススキは腐って3年くらいで土に戻る。

・茅葺で使われる材料は全て自然でできたものを使っている。



9月：NPO 法人西中国山地自然史研究会八木洗也様に協力していただき、高原の自然館、芸北民俗博物館、千町原を訪問した。自然との共生、歴史、茅の保管

方法などを学んだ。

9月：島根県在住の生徒の祖父母宅に竹を取りに行った。

10月：芸北支所を訪問し、支所長にティピを建てる計画を説明し、了承を得た。

10月：茅を購入（芸北中学校と連携）した。NPO 法人西中国山地自然史研究会の八木様のご協力のもと、芸北支所に運び、準備を行った。



10月：芸北支所にティピを建てた。株式会社 Earth Building の沖元太一様と川畑太輝様、NPO 法人西中国山地自然史研究会の河野弥生様の支援で実施した。





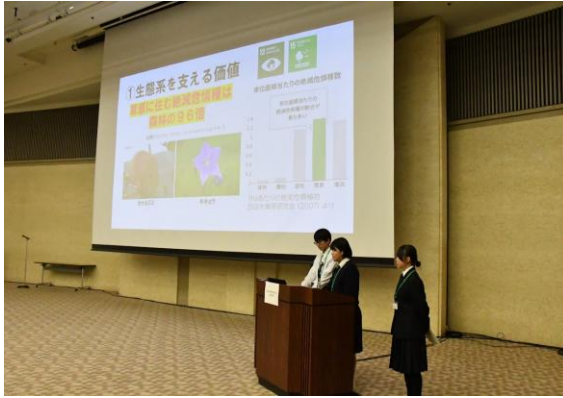
10月：第11回全国ユース環境活動発表大会にプレゼンテーション資料を作成して、応募した。

11月：芸北中学校主催の茅刈り大会に参加し、地域の方々や芸北中学校、職人の方々と協力して、茅を刈った。価値の高い茅とはどのようなものか、ススキ草原にクラス動植物について説明を受け、絶滅危惧についても学ぶことができた。



11月：ティピの内装作りや広報活動を開始した。

12月14日（日）：第11回全国ユース環境活動発表大会中国地区大会出場し、広島国際会議場で発表を行った。全国大会出場は逃したものの、全体で4位相当となる「先生が選ぶ特別賞」をいただいた。他校生徒との交流や、発表を聴き、自分たちの活動の課題を明確にすることができた。



1 2月20日（土）：校内での成果発表会で、地域の方々やお世話になった方々を招き、発表を行った。



4 活動の報告および成果

今の茅葺建築の現状は、全国的に数を減らし、文化の継承が途絶えつつある。そんな茅葺建築は、SDGsの観点に深く合致しており、今の時代に必要不可欠で、魅力のある素晴らしいものだ。この素晴らしい茅葺建築を多くの人に知ってもらいたという目標を掲げ、この茅プロジェクトを設立した。

この茅プロジェクトを開始してから1年。私たちがまず行ったことは、茅の魅力を知るために実際に茅葺住宅に住んでいる、下杉さん宅に訪問をすることです。そこで茅葺住宅が持続性にたけていて、カーボンニュートラルにつながっているということを知る貴重な日になった。

私たちはこの茅を活用して多くの人に茅と触れ合ってもらいたいと考えた。その結果、学校に茅のティピを建てることになった。この計画を実現させるために、まず私たちが行ったことは主に4つある。1つは、芸北地域の植生・文化・技術・歴史などの知識を得ること。2つ目は、NPO 法人西中国山地自然史研究会様、そして株式会社 Earth Building 様に協力していただくこと。3つ目は広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業（高校版）で資金を集め活用すること。そして最後の4つ目は、本

校の加計高等学校芸北分校にティピの設置許可を行ったこと。しかし、交渉の結果は安全性の問題やメンテナンスの関係で許可が下りることができなかった。そのため、加計高等学校芸北分校に近接する芸北支所に訪問し、支所長にティピを建てる計画を説明し、了承を得た。芸北支所は、地域の方々が頻繁に利用する場所であり、また芸北地域の玄関口でもあるため、憩いの場として最適と考えた。交渉が決まり、ティピを立てるための材料を自分たちで地域の人と交渉して取りに行った。

ティピで使う竹は島根県にある生徒の祖父母の家まで取りに行き、茅は芸北の茅金（かやきん）市場で購入し、様々なつながりがあって、材料を集めることができた。そして、10月20日に株式会社 Earth Building 様に指導をしていただき、芸北支所にティピを建てることができた。ティピを設置して何を感じたかを、加計高等学校芸北分校の生徒にアンケートをとった。するとアンケートの感想には、茅葺屋根の魅力を感じることができたなど、たくさんのうれしい言葉をもらうことで、茅葺屋根の「壊れやすそう」や「時代遅れ」といったネガティブな印象を少しでも変えることができ、地域活性化に一步近づいたと考えている。

現在では日々ティピの内装の手入れや清掃を行っている。ほかにも広報に力を入れ、より多くの人にティピを通して茅の魅力を伝えられるように活動を行っている。また、芸北地域で毎年11月に2回行われている芸北中学校主催の茅刈り大会に参加し、茅葺文化の理解を深めることができた。

私たち茅プロジェクトの活動を多くの人に知ってもらうために、12月14日に行われた、第11回全国ユース活動報告大会中国大会に出場した。プレゼンではこの1年間で学んだことや行ってきたこと、そしてなぜ茅葺建築がSDGsの観点に深く合致しているのかについて発表した。結果は4位であり、「先生が選ぶ特別賞」に入賞することができた。このプレゼンを通し、ほかの学校がどんな活動を行っているのかを知ることができ、これからの茅プロジェクト活動に活かしてこれからも活動したいと思う。